

ESD のひろば

第2回

今月の ESD のひろばでは「どうして ESD？」をテーマにお話ししていきます！

そもそも、なんで ESD が始めたの？

1962年 レイチェルカーソンという人が「沈黙の春」という本を出しました。



みなさん！
生態系がおかしくなってますよ～

1972年 国連人間環境会議で環境問題が人間の脅威であり国際的に取り組むべき課題だと宣言されました。

「やっぱり、
まずいよ、まずいよ、、、」

「確かにこのままじゃあね」

「そろそろ皆でやりますか！」

人間環境宣言

1987年 環境と開発に関する世界委員会（プラントライト委員会）

1992年 環境と開発のための国連会議（地球サミット）

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議（リオ+10）



「ESD やろうよ！」



「日本さん！いいこというね！」

「プラボー！」

じゃあユネスコがリーダーで！

2005年 国連 ESD の 10 年 国際実施計画をユネスコが策定

そして月日は流れ、日本では・・・

2018年 教育指導要領改訂（幼稚園小中学校）

学習指導要領前文に「・・・これからの中学校には、一人一人の生徒が、持続可能な社会の創り手となることができるようになります」と ESD の教科の枠を超えた取り組みが全面的に打ち出されました。

じゃあ、なんでえ保育園で ESD をするの？

ユネスコは持続可能な開発を実現するには、ESD を幼稚期から行うことを推奨しています。

コミュニケーション能力や対人関係能力、共感性などの社会性の発達において重要な能力は、母（まわりの大 人）から子へと注がれる愛情から生まれる基本的信頼感など、乳児期の体験が大きく影響するからです。

乳児期



幼児期



少年期・青年期



基本的信頼感

自己肯定感
発見
意欲
粘り強さ

認知能力と
非認知能力の調和

・ユネスコが ESD で育みたい力-

- ・人間の尊重、多様性、非排他性、
機会均等、環境の尊重
- ・体系的な思考
- ・代替案の思考力
- ・データや情報の分析能力
- ・コミュニケーション能力
- ・リーダーシップの向上